

『体育がきらい』

坂本 拓弥／著 筑摩書房（2023年）

『体育がきらい』というタイトルを見て、どう思いましたか？私もきらいと思った人も、私は好きと思った人も、体育なんてどうでもいいと思った人もいることでしょう。本書では体育がきらいな人だけでなく、体育が好きな人、どうでもいい人にも読んでもらいたい欲張りな1冊になっています。ただし、体育が好きな著者が、体育を好きになってもらいたいと思い書いているわけではありません。なぜ体育がきらいになるのか、その過程について哲学などの様々な観点からの考察がされています。



『プロサッカー選手は、ど田舎にいる！』

山田 明／著 結布／絵 学研プラス（2022年）

U17（17歳以下）の世界大会決勝。この大会で、決勝ゴールを決めた^{はるきそら}春木宙。ワールドカップ、外国のサッカーチームへの移籍などイメージがどんどんふくらんで、このまま突っ走ればいい…と思っていた。でも、今、宙がいるのは「あけぼのFC」。宙はプロリーグ1部のチームで全く結果が出せず、2部のチームに移籍することになった。ダイコン畑が広がる“ど田舎”からの、サッカーお仕事小説。



『中高生のスポーツハローワーク』

学研プラス（2022年）

スポーツに関わる仕事ってどんなものがあるのだろう。そんな疑問にこたえてくれる本です。選手になるだけではなく、選手が使う道具を作る人もいます。選手がケガをしたときに助けてくれる理学療法士、文章を作るのが得意な人はスポーツライター、このようにたくさんの種類の仕事があります。

本の中には、15人のスポーツに関わる仕事をしている人たちが出てきます。どの人もスポーツが好きという熱意があります。スポーツが好きな人は、自分にあったスポーツの仕事を見つけてみてください。



『ややの一本』

八槻 綾介／作 野間 与太郎／絵
ポプラ社（2023年）

中学1年生の^{くにだけ}國武ややと、友達のなつ、^{ひめな}姫奈は入学してはや1ヶ月、部活に入ることもないまま、もやもやした気持ちを抱えていました。3人が小学生まで通っていた剣道教室がなくなってしまい、剣道が続けられなくなってしまったのです。それでも剣道がやりたいややたちは、部活をつくりたいと担任の土井先生に相談します。ややたちは、剣道部をつくることができるのでしょうか。読むと熱い気持ちになれる青春スポーツ小説です。ややたちと一緒に剣道をしている気分を味わってみませんか。



『コツが身につくスケートボード』

基本技と30のトリックを写真付きで
わかりやすく解説！

早川 大輔・赤熊 寛敬／著
マイナビ出版（2021年）



「スケボーって、楽しい！」東京五輪金メダリストの^{にしやもみじ}西矢 栞さんのコメントです。かっこよくて楽しいなんて、最高ですよ。基本のトリックを身につけていれば、アレンジは自由というのも魅力です。基礎知識を学んだら、次は板選び。自分に合ったギアで、さっそく始めてみましょう。基本技と30のトリックも写真でわかりやすく解説されています。スケートボードに興味があれば、ぜひ手に取ってみてください。

『疾風の女子マネ！』

まはら 三桃／著 小学館（2018年）

高校生になった咲良は、男子にちやほやされたくて運動部のマネージャーになろうと思います。放課後、風のように走るタイプの男子を追っていくと、そこは陸上部の100メートルリレーの秘密の訓練場所でした。先輩マネージャーに勧められ断り切れずにその場で入部します。最初は正確にタイムも計れなかった咲良ですが、部員との関係に悩みながらサポートしていくうちに自覚ができてきます。人を応援すること、応援されて頑張れることは本当に素晴らしい事だと感じさせてくれる爽やかな作品です。

